

LB LogViewer について

「LB LogViewer」は「LB アクセスログ2」のログファイルをまとめて読み込み、検索や絞り込みをするためのツールです。多数のPCから出力されたログをまとめて読み込み、期間、ユーザ、ログの種類、キーワード等で絞り込みや検索を実行してログを有効に活用できます。

注意事項

- このツールは「LB アクセスログ2」により出力されたCSV形式のログ(.lock形式で暗号化されたログも含む)専用です。
(.log形式、「USB HardLocker」シリーズのログには対応していません)。
- HDDに大量のデータの読み書きを行います。HDDの性能により動作速度が大幅に影響を受けますので、できるだけ高速なHDD環境でご使用ください。また書き込みを大量に行う性質上、SSDで使用した場合、寿命を縮める可能性がありますので、SSDでのご使用はお勧めできません。

表示可能な件数の上限について

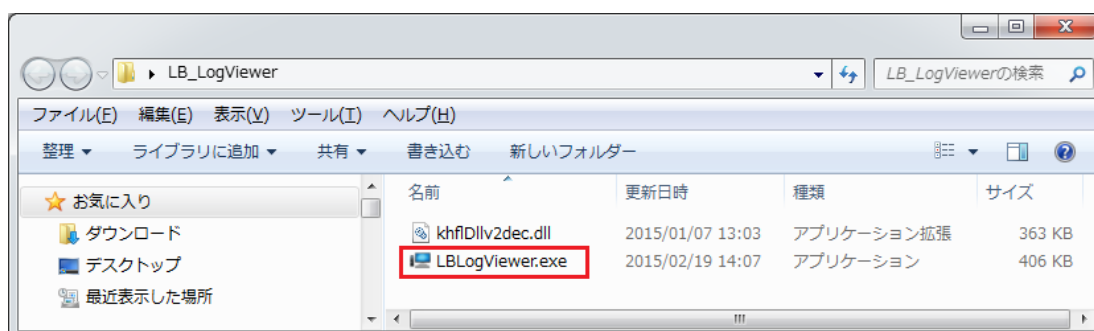
Windows の制限により、「LB LogViewer」上で表示可能なレコードの上限は 1 億件となります。取り込み結果や絞り込み結果が1億件を超えた場合、警告メッセージが表示されます。警告が表示された場合は、取り込み後、取り込み条件を変更するか、絞り込みを実行してください。上限を超えている場合、先頭から表示可能な件数のみ表示されます。取り込み自体は、HDD 容量が許す限り何件でも可能です。

動作環境

対応OS	Windows Vista/7/8/8.1、Windows Server 2008/2008 R2、Windows Server 2012/2012 R2 (32ビット/64ビット版に対応)
CPU	Intel Core2 2GHz以上または、同等以上の性能の互換CPU
メモリー	空き物理メモリー 600MB以上
ディスク容量	取り込もうとするログファイルの8倍以上の空きディスク容量(作業用フォルダとして設定したドライブに必要)

使用方法

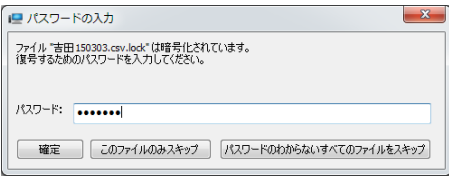
(1)「LB_LogViewer.zip」を解凍後、フォルダ「LB_LogViewer」をデスクトップ等、PC 上にコピーして、「LB LogViewer.exe」を起動します(インストールの作業は不要です)。

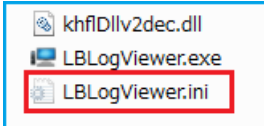


(2)取り込み条件の設定画面が表示されます。ここで、ログを取り込むための設定を入力して「取り込み開始」をクリックします。

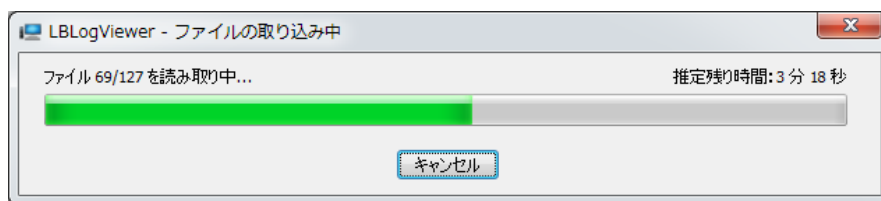


< 設定する内容 >

①取り込むフォルダの設定	「参照」をクリックして、ログを保存したフォルダを指定します。サブフォルダ内のファイルも処理されます。処理されるファイルは、「LB アクセスログ 2」により記録された CSV 形式のログファイル、および、*.csv.lock の暗号化済み CSV ファイルのみです
②取り込む期間の設定	「プリセット」をクリックすると、よく使用する期間の候補が表示されます。日付横のプルダウンでカレンダーが表示されますので、それを使って設定するか、直接数値入力を行ってください。
③取り込むユーザの指定	ユーザ名は、ワイルドカードを使用したパターンマッチングで指定可能です。* は 0 文字以上の任意の文字列と、? は任意の1文字とマッチします。すべてのユーザを対象にしたければ、* 1文字のみを記述してください。マッチングの際、大文字小文字は区別しません。
④作業用フォルダの指定	必要に応じて作業用フォルダを指定します。初期値はシステムデフォルトの一時フォルダ「%TEMP%」が設定されています。空き容量が不足している場合や、より高速なドライブがある場合には、参照ボタンから指定するか、パスを直接入力してください。フォルダのみ指定可能です。入力したパスのフォルダ以下に、一時ファイルが生成されます。一時ファイルは不要になり次第削除され、アプリケーションを終了すると、すべての一時ファイルが削除されます。
⑤パスワードの追加	<p>暗号化済み CSV ファイル(.lock)を取り込む場合、パスワードを事前入力することができます。「パスワードの追加」をクリックすると、パスワードの事前入力画面が表示されますので、復号パスワードを入力してください。</p>  <p>パスワードを追加すると、元の画面に入力したパスワードの個数が表示されます。パスワードはいくつでも入力可能ですので、取り込みたいファイルが複数のパスワードを使用している場合、すべて入力しておく、取り込み時に途中で停止せず、効率的です。</p>

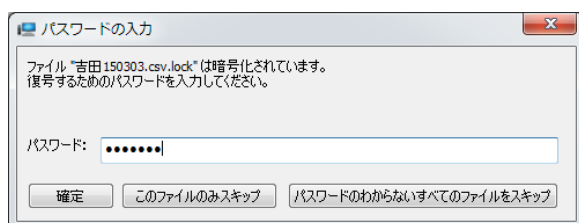
<p>⑥設定ファイルには保存しない</p>	<p>「パスワードの追加」から事前入力したパスワード情報を保存しておくことができます。保存する場合は、「設定ファイルには保存しない」のチェックをはずしてください。</p> <p>現在 4 個のパスワードが登録済みです。</p> <p><input type="button" value="パスワードの追加"/> <input checked="" type="checkbox"/> 設定ファイルには保存しない</p> <p>設定情報は「LBLogViewer.exe」が存在するフォルダに「LBLogViewer.ini」として隠し属性のファイルが生成されます(パスワードの情報は暗号化されます)。 ※ ログの取り込みを実行せずに終了した場合、パスワードは保存されません</p> 
<p>⑦取り込み開始</p>	<p>設定した条件に従い、取り込みを開始します。</p>

(3)設定完了後に「取り込みを開始」をクリックして取り込みを開始します。処理が完了するまでお待ちください。



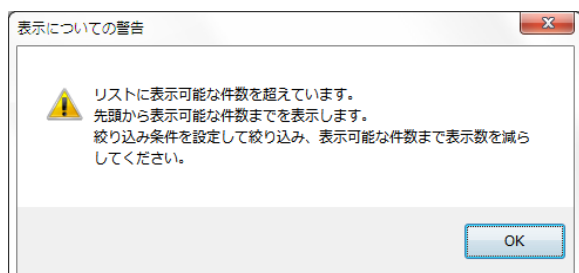
途中でキャンセルをクリックすると、そこまでに読み取ったファイルのみで続きを表示します。取り込んだログは、一時フォルダ(「作業用フォルダの設定」にて指定したフォルダ)に保存されます。最大で、取り込むログの2倍程度のサイズのファイルを生成する可能性があります。

*.csv.lock ファイルが含まれる場合で、事前に登録されていたパスワードで復号できない場合、次のようなパスワード入力画面が表示されます。対応するパスワードを入力し、「確定」をクリックしてください。パスワードが正しくない場合、「確定」ボタンは無効化され、クリックすることができません。入力したパスワードはメモリー上に記憶され、次のファイル以降で自動的に使用されます。記憶されているパスワードに該当するものがない場合のみ、この画面が表示されます。パスワードが不明な場合には、「このファイルのみをスキップ」をクリックすると、このファイルのみ無視して先へ進みます。「パスワードのわからないすべてのファイル」をクリックすると、以降メモリー上のパスワードで展開できないファイルは、すべて無視して先へ進みます。



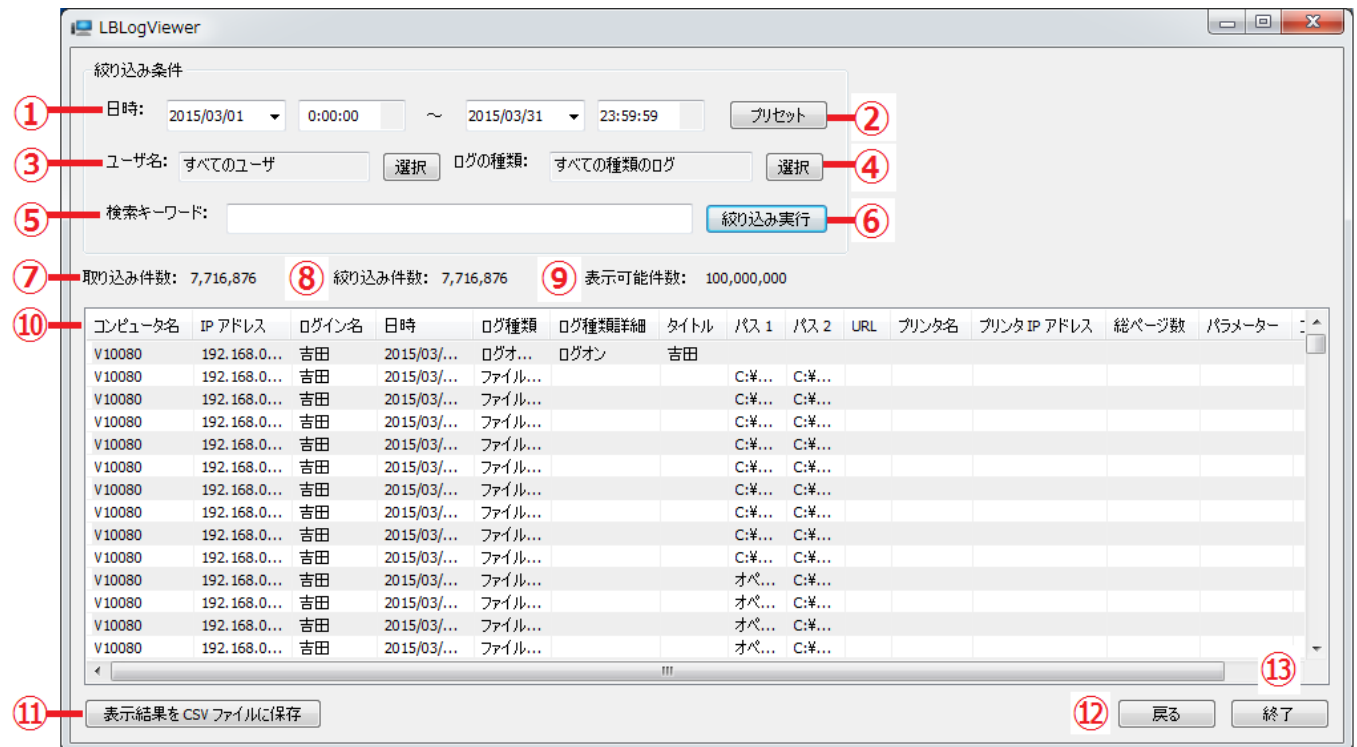
表示の警告

総レコード数が 1 億件を超える場合、警告ウィンドウが表示されます。取り込み完了後に、絞り込みを実行してください。



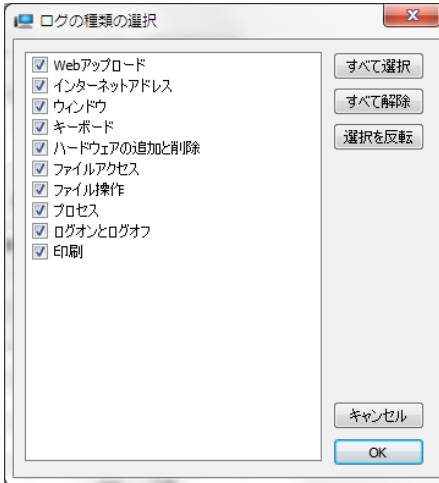
(4)取り込みが完了すると、次の画面に取り込んだ内容が表示されます。

この画面上から、「期間」、「ユーザ名」、「ログの種類」に関する絞り込みや、検索キーワードで、すべてのカラム内容を検索し、一致するレコードのみ表示することができます。また、表示結果の並び替えることができます。



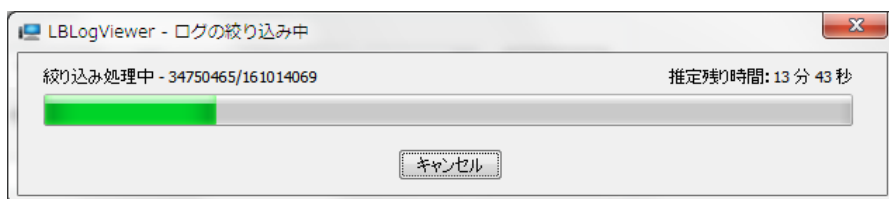
<画面の説明>

絞り込みの設定	
①日時	直接数値を入力するか、プルダウンの選択により、時刻まで指定した絞り込みをすることができます。
②プリセット	あらかじめセットされた期間(「すべて」、「今日」、「昨日」、「今週」、「先週」、「今月」、「先月」、「今年」、「昨年」)を選択できます。
③ユーザ名	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>チェックボックスのOn/Offで、対象ユーザを限定できます。「すべて選択」をクリックすると、すべての項目のチェックがOnになります。「すべて解除」をクリックすると、すべての項目のチェックがOffになります。「選択を反転」をクリックすると、すべての項目のチェック状態が反転します。「OK」をクリックすると、絞り込み条件として確定します。この時点では、まだ絞り込みは行われません。すぐに絞り込みをしたい場合には、元の画面の「絞り込み実行」をクリックしてください。</p> </div> </div>

④ログの種類		<p>チェックボックスのOn/Offで、対象ログの種類を限定できます。「すべて選択」をクリックすると、すべての項目のチェックがOnになります。「すべて解除」をクリックすると、すべての項目のチェックがOffになります。「選択を反転」をクリックすると、すべての項目のチェック状態が反転します。「OK」をクリックすると、絞り込み条件として確定します。この時点では、まだ絞り込みは行われません。すぐに絞り込みをしたい場合には、元の画面の「絞り込み実行」をクリックしてください。</p> <p>(表示されるログの種類は、取り込み対象のログに実際に記録されている項目だけです。)</p>
⑤検索キーワード	<p>検索キーワードは、検索したい単語を半角スペースで区切って入力します。AND検索のみ行うことができます。いずれかのカラムに指定したすべての単語が含まれる場合のみ、表示対象とします。検索の際、大文字小文字は区別しません。</p>	
⑥絞り込み実行	<p>設定した条件での絞り込みを行い、リストの表示を更新します。</p>	

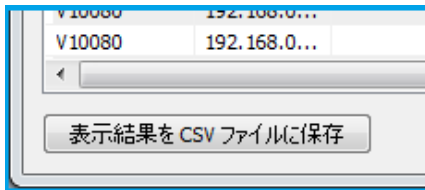
取り込み、絞り込み後の表示	
⑦取り込み件数	取り込んだレコードの件数
⑧絞り込み件数	絞り込み実行後のレコード件数
⑨表示可能件数	表示可能なレコードの最大件数(1億件)
⑩データの内容	<p>取り込み/絞り込みの結果を表示します。</p> <p>カラムヘッダー部分のクリックで表示内容を並べ替えることができます。表外の(8)を参照してください。</p>
⑦表示結果をCSVファイルに保存	<p>表示内容(絞り込みを実行した場合は絞り込みの結果)をCSV形式のファイルに保存します。保存前に「戻る」または「終了」をクリックすると、取り込んだ結果が破棄されますのでご注意ください。</p> <p>(絞り込み実行前のデータを保存すると、最大で、取り込むログと同容量のディスクを消費します。)</p>
⑧戻る	<p>一つ前の画面「ログ取り込み条件の設定」に戻ります。取り込んだログを保存していない場合、絞り込みの結果は破棄されます。</p>
⑨終了	<p>「LB LogViewer」を終了します。取り込んだログが未保存の場合、絞り込みの結果は破棄されます。</p>

(5)「絞り込み実行」をクリックすると、次のようなウィンドウが表示されますので、終了するまでお待ちください。途中でキャンセルした場合、そこまでに見つかったレコードのみを表示します。絞り込みを行った場合、絞り込み結果を保存するために追加でディスク空き容量を消費します。最大で、最初の取り込み時に消費した同容量が必要となります。



(6)絞り込み処理が完了すると、(4)と同じ画面に絞り込んだ結果が表示されます。絞り込み後のレコード数が上限値の 1 億件を超えている場合や内容を限定したい場合には更に絞り込みの操作をすることができます。

(7)絞り込みの結果が表示されたら、必要に応じて「表示結果を CSV ファイルに保存」をクリックして、データを保存してください。保存せずに「戻る」、「終了」をクリックすると、絞り込みの結果は破棄されますのでご注意ください。



(8)表示結果の並び替えをする場合、リストのカラムのヘッダー部分をクリックします。マウスの左クリックで昇順、右クリックで降順に並び替えることができます(クリック後、ただちに並べ替えの処理が実行されます)。

コンピュータ名	IP アドレス	ログイン名	日時	ログ種類	ログ種類詳細	タイトル	パス 1	パス 2
---------	---------	-------	----	------	--------	------	------	------

※ 並べ替えはレコードの件数によっては非常に時間がかかります。並び替えの作業には絞り込み結果の保存に必要なサイズの 2 倍のディスクの空き容量が必要です。

(9)並べ替えの処理中は以下のウィンドウが表示されます。

※ 並べ替えたデータは「表示結果を CSV ファイルに保存」で保存することができます。

